



経産省・MEJ 主催により医療セミナー、保健省・病院訪問実施（写真：正会員講師陣“7人のサムライ”）

ベトナム 官民ミッション

2013年8月

MEJ セミナー開催

8月26日（月）8：40～

於：プルマンホテル（ハノイ）

主催：経済産業省、MEJ
 共催：ベトナム保健省、日経新聞グローバル事業局
 後援：JICA
 協賛：富士フィルム、日立 G、コニカミルタ、三菱電機
 日本光電、オリンパスメディカル、東芝メディカル
 参加数：約 150 名
 うち医療関係者 80 名、企業関係者 40 名
 メディア関係者 30 名
 主賓：ベトナム保健省トゥアン副大臣、バックマイ病院
 レイ・カイン（女優）、谷崎日本大使
 経済産業省 福岡課長補佐
 講師：名古屋大学 後藤教授
 岡山大学 佐野教授
 MEJ 江藤理事



ベトナム保健省トゥアン副大臣、谷崎大使（当時）によるスピーチに続き、MEJ 江藤理事が「これまで医師も企業も個々に進めてきた医療の国際化を官民一体で推進するのが新生 MEJ」と MEJ を紹介。後藤教授（名大）は「日本のがん検診と治療」につき紹介し、多くの症例写真が聴講者を惹きつけた。佐野教授（岡大）は、ベトナムでの小児外科医向けトレーニングを紹介。「子供は死ぬために生まれてくるのではない！」という感動的メッセージが心に響いた。一方、ベトナム側は、国立バックマイ病

院が、ベトナムでは乳がん、肺がん、直腸がんが多いことや、心疾患の増加について報告し、「日本のがん検診・治療法に学びたい」と締めくくった。後半は、経産省福岡課長補佐の挨拶を皮切りに、MEJ 正会員講師陣“7人のサムライ”たちが、自社製品の特長・優位性を熱く語り、日本の優れた高い技術を PR した。

保健省訪問



セミナー終了後、官民ミッション団代表 13 名は福岡団長（経産省）を筆頭に保健省を訪問。セミナーにも参加頂いたトゥアン副大臣との間で、日・アセアン首脳会談（12 月東京）での共同声明に「がん・生活習慣病対策における日越の協力」を盛り込むべく事務レベル協議を開始することで合意。会談は大いに盛り上がり、当初 30 分の予定が 1 時間以上にも及んだ。

病院訪問

翌 27 日、官民ミッション団は大型バスをチャーター。保健省直轄の 3 大中核病院の一つ「バックマイ病院」とその指導下にある郊外の中規模病院「フォアピン病院」を訪問した。特にバックマイ病院では、順番待ちの患者が廊下をはじめあちこちに溢れ返っており、ベトナムの医療の問題点を如実に物語っていた。医師団とのディスカッションでは、医師のトレーニングの話など具体的な支援内容にまで話が及び白熱した議論となった。



◆ハノイ交通事情◆ 経済成長とともにバイクが急増

驚異的大交通渋滞に悩む新興諸国の大都市。タカ（バングラデシュ）がリキシャ（人力車が語源？）、デリーやチェンナイ（インド）がトゥクトゥク（電動三輪車）なら、ハノイはバイク時代到来。男も女もピカピカのバイクにまたがりヘルメットにマスクで仮面ライダーさながら道路を占拠し、自動車は肩身が狭い。歩行者の横断はまさに命がけ。それでも、「以前に比べれば 4 人乗りが減ってるから相当よくなっているよ」（ベトナム事情通 佐野教授）だそうです。



編集：MEJ 事務局 品川渉